亡船記
Logbook of a Sea Goddess

青柳菜摘
Aoyagi Natsumi

2022.9.17sat→12.18sun

space（十和田市現代美術館サテライト会場）
www.towadaartcenter.com

Arts Towada

亡船記
Logbook of a Sea Goddess
青柳菜摘
Aoyagi Natsumi

2022.9.17sat→12.18sun

本展では、アーティストの青柳菜摘が、航海によって波及した中国発祥の媽祖（まそ）信仰をきっかけに構想した、航海日誌をテーマに制作した作品を発表します。船は、今では身近な移動手段ではなくなりましたが、かつては遠方へ赴く唯一の手段であり、未踏の地への命を懸けた冒険でもありました。航海記からSFに登場する宇宙船まで、数々の文学の主題ともなっており、航海にまつわる比喩や慣用句は、現在でも日常的に使われています。タイトルである「亡船記」は、そういった現代における不可視な船をテーマとして扱う試みから題されました。本展は、人々の船での移動によりその信仰が東アジア一帯に広がった航海の女神 媽祖のほか、大航海時代に長い航海での水分補給と健康維持のために発展したと言われるカクテルなど、船をめぐる古今東西の要素を織り交ぜた映像インスタレーションを、spaceを始め、美術館内カフェや十和田市内の花屋、温泉、バー、スナックの6つの拠点で、一冊の絵本を編むように展開します。かつて海を渡った無数の人びとの希望や苦難、ともに各地で根付いた生き物や酒、信仰。青柳が描く船なき航海日誌は、先行きの見えない時代を生きる私たちを、現在の世界に今もそっと生き続ける彼／彼女らと出会う旅へと誘うでしょう。

青柳菜摘　Aoyagi Natsumi

1990年東京都生まれ。ある虫や身近な人、植物、景観に至るまであらゆるものの成長過程を観察する上で、記録メディアや固有の媒体に捉われずにいかに表現することが可能か、リサーチやフィールドワークを重ねながら、作者である自身の見ているものがそのまま表れているように経験させる手段と、観客がその不可能性に気づくことを主題として取り組んでいる。2016年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。近年の活動に《TWO PRIVATE ROOMS―往復朗読》（オンライン・プロジェクト、2020–）、「『新しい成長』の提起：ポストコロナ社会を創造するアーツプロジェクト」（東京藝術大学大学美術館、2021）、第10回恵比寿映像際（東京都写真美術館、2018）など。また書籍に詩集『家で待つ君のための暦物語』（2021）、『孵化日記 2011年5月』（thoasa publishing、2016）がある。プラクティショナー・コレクティヴであるコ本や honkbooks主宰。

主催 | 十和田市現代美術館
助成 | 令和4年度 文化庁 文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業
協力 | 愛莉の部屋、Cocktail bar RED DOOR、田島生花店、みちのく温泉、コ本や honkbooks、東京藝術大学大学院映像研究科 RAM Association、
後援 | 青森朝日放送、青森テレビ、青森放送、デーリー東北新聞社、東奥日報社、十和田市教育委員会
キュレーター | 外山有茉

プロジェクトアドバイザー | 和田信太郎
グラフィックデザイン | 柳川智之
展覧会タイトル英訳協力 | 小山太一
テクニカルサポート | 永田風薫
展示協力 | 呂孟恂
[文船] 什器設計 | 土方大　**3Dプリント** | 青柳行浩
[灯船] 写真撮影 | 小山田邦哉　**3DCG作成** | 永田風薫
[塩船] サウンド作成 | 永田風薫

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

[作品リスト]

❶《望船》*Sea Goddess*
ビデオ・インスタレーション（6分、ループ）、2022
ディスプレイ、iPhone

❷《文船》*Log*
ビデオ・インスタレーション（4分、ループ）、2022
ヘッドマウントディスプレイ、3Dプリント

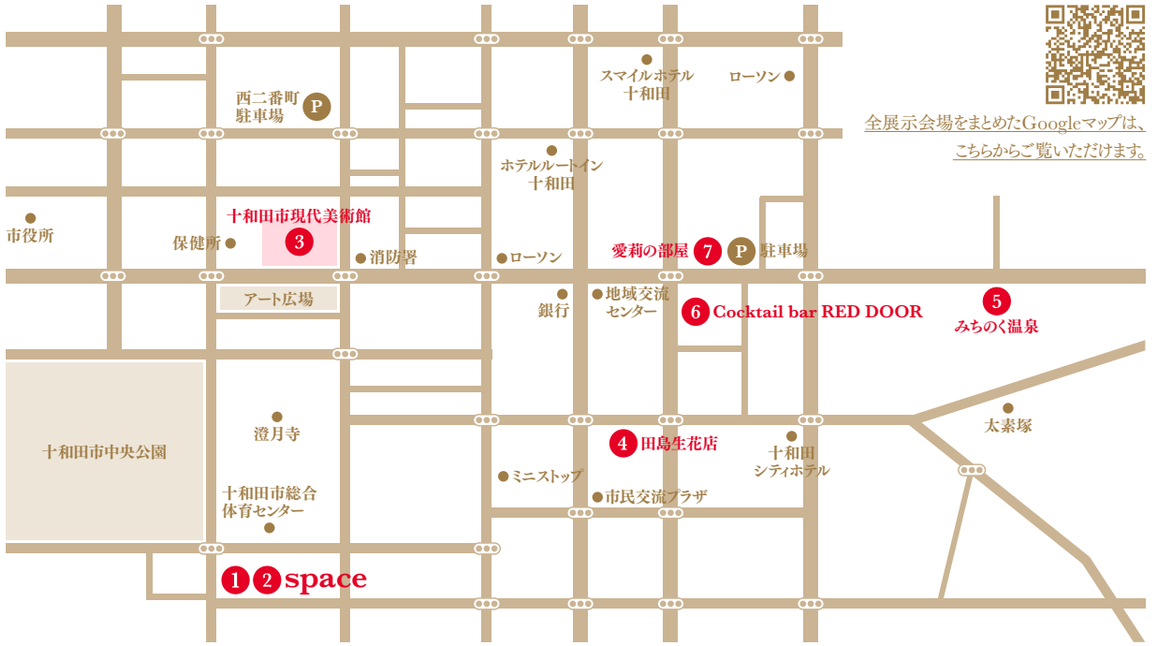
❸《灯船》*Light*
インスタレーション、2022
写真（ラムダプリント）、額、マリンレーダー

❹《方船》*Utopia*
ビデオ・インスタレーション（5分、ループ）、2022
ディスプレイ2台

❺《消船》*Landing*
ビデオ・インスタレーション（4分、ループ）、2022
ディスプレイ4台、線香

❻《塩船》*Salty Dog*
ビデオ・インスタレーション（4分、ループ）、2022
コースター、写真（インクジェットプリント）、額

❼《蝶船》*Butterfly*
ビデオ・インスタレーション（4分30秒、ループ）、2022
ディスプレイ、アカボシゴマダラの標本、アクリルケース



全展示会場をまとめたGoogleマップは、こちらからご覧いただけます。

[会場リスト]

• space
住所 | 十和田市西三番町18-20
開場時間 | 火–日 10:00–17:00（月曜日が祝日の場合は翌日閉場）
無料／駐車場なし／2階、エレベーターなし

• 十和田市現代美術館カフェ
住所 | 十和田市西二番町10-9
開場時間 | 火–日 9:00–17:00（月曜日が祝日の場合は翌日閉場）
無料／最寄り駐車場：西二番町駐車場／1階

• 田島生花店
住所 | 十和田市稲生町18-5
開場時間 | 月–土 9:00–18:30、日・祝 9:00–16:30（定休日：第一日曜）
無料／駐車場あり／1階

• みちのく温泉
住所 | 十和田市東三番町21-5
開場時間 | 月–日 6:00–22:00
無料／駐車場あり／1階、段差あり

• Cocktail bar RED DOOR
住所 | 十和田市東三番町1-47
開場時間 | 火–土 19:05–26:00
展覧会に合わせて考案されたカクテル「塩船」（¥1,000）のご注文で映像がご覧いただけます。（ノンアルコールあり）
近隣に有料駐車場あり／2階、エレベーターなし

• 愛莉の部屋（スナック）
住所 | 十和田市東二番町2-48
開場時間 | 月–日 20:00–24:00
ドリンクのご注文が必要です。
近隣に有料駐車場あり／2階、エレベーターなし

- spaceと美術館カフェ以外の会場は、いずれも通常営業中の店舗です。事情により臨時休業の場合もございますのでご了承ください。営業時間や展覧会については各店舗ではなく美術館（TEL:0176-20-1127）にお問い合わせください。
- 写真撮影可。動画撮影はご遠慮ください。撮影の際は、他のお客様のご迷惑にならないようご注意ください。

OK　NG